

まつど未来づくり会議 会議録（要旨）

分科会名：都市経営分科会

開催日時：平成21年8月7日（金）16時10分～19時

開催場所：松戸市議会棟 3階 特別委員会室

出席委員：新井靖、小林恵一、斉藤利信、清水一、竹林清、中村美枝子、若林桂子、津川正治、加藤和彦、岡村隆秀（敬称略）
事務局）白井宏之（政策調整課）

会議内容

<分科会長・副会長の互選>

分科会長：清水一委員

副会長：若林桂子委員

<今後のスケジュール>

第2回：平成21年8月27日（木） 16時～19時

（場所は、事務局で確保）

第3回以降は、その都度、協議して決定する

<テーマについての思い・課題意識の共有>

- 各委員が、それぞれの思いや課題意識をポストイットに記入し、別紙のとおり、表にまとめた。
- その表に基づき、話し合いを行った結果、次のような意見が出た。

- 松戸は、企業誘致を図るようなまとまった土地もなく、工業団地からの撤退している例があるにしても、それは、グローバルな話（中国への工場進出など）なので、松戸市単独で対策を打つにしても限界がある。東京などに働きに出ている人が多いのだから、東京での産業が盛んにならないと、松戸の収入にはつながりにくい。そう考えると、新しい収入を増やすのは限界があり、増やせないわけではないだろうが、努力しても、それだけの結果は得られない。だとすれば、支出を抑える方向で検討をすすめていくべきである。
- 伊勢丹に平日に行ってもお客さんが少ない。ニューオータニが撤退し、伊勢丹も撤退するのではないかと危機感をもっている。
- 北総線沿線で商売していても、お客が通過していってしまう。商売をする環境がどんどん悪い状態になっているように思う。

- やはり新しい企業に来てもらいたいという気持ちも重要である。市民のアイデア、20代・30代の世代、若い女性には素晴らしい人がたくさんいるので、そういう人たちのアイデアをいかしていけば、街の活性化はできるはずである。もっと人材の活用を図るべきである。
- 商店街なども衰退し、松戸がゴーストタウンになってしまうのではないかという危機感がある。
- 世の中の動きとして、全国的にシャッター通りなどが増えてきている状態がある。そうなるのは、市民自らが、地元で買い物をするのではなく、市外で買い物をしたいというニーズの結果である。市民のニーズが、そういう方向に向かっているとすれば、それを変えるのは難しい。
- 検討のポイントを収入と支出どちらに比重をおくかだが、支出削減に比重をという意見もあるが、両方大事なことなので、両方検討すべきである。
- 余り議論されていないことかもしれないが、高齢者に優しい街をめざすという政策は、収入の面からみるとマイナスになるのではという側面もあるはずだ。
- 人件費の削減の話題であるが、支所の窓口などをみていると、パートタイマー、非常勤の人でも良いのではという仕事に、立派な職員が就いているように思う。非常にもったいないと思う。
- 既得権益の部分にもメスをいれていかなければならない。
- 市の財政を小・中学生にでもわかるように広報していくべきである。

<本日の感想>

- このような場なので、あえて、極端な意見を言うようにした。
- 松戸の強みと弱みを数値で他市などと比較をして、劣っているところ直すような検討をしていきたい。
- 今後、議論が、面白くなりそうな話し合いができた。
- 小回りがきく街になっていけばと思う。コミュニティバスは是非、導入し

てもらいたい。

- いろいろな方の意見が聴けた。
- 都市経営というテーマなのか、どう進めていったらいいのか、考えていきたい。
- もっともっと自由に意見を言いたかった。事務局の説明が長すぎた。

以上